NIE実践報告

1．タイトル：新聞を活用するなかで、自分なりに考え、判断しながら視野を広げていくための指導

2．学校名

安曇野市立三郷小学校

3．実践者名（代表者名）

宮嵜 賢一

4．学年

第６学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科　３３人

6．単元（本時の学習課題）名

ともに生きる世界をめざして

7．目標(狙い)

東日本大震災で多くの国が日本に支援してくれた理由を話し合ったり、日本が国際貢献をしてきた資料で考えあったりすること通して、今まで日本が世界で果たしてきた役割を理解することができる。

8．評価の視点

新聞記事を通じて、日本の国際貢献を知り、世界中の日本の役割を理解できたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「ともに生きる世界をめざして」　(８時間扱い中の第４時間目)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

① 日本と外国はどんなつながりがあるのだろうか(１時間)
② 東日本大震災を通して、日本と外国とのつながりについて考えよう(１時間)
③ 「なぜ、１６３カ国もの多くの国が支援してくれたのだろうか」について予想を立て、根拠となる資料(教科書や新聞記事)をさがし、発表し合い、考えを深める(２時間)
④ 国連はどのような働きをしているのだろう(１時間)
⑤ ぼくたちがユニセフに募金したお金は、どのように使われているのだろう(１時間)
⑥ 青年海外協力隊やＮＧＯは、どんな活動をしているのだろう(１時間)
⑦ 世界で起きている問題の解決のために、自分たちがこれからできそうなことは何か考えよう(１時間)

留意点
・今までしてきたグループごとの新聞スクラップをもとに、自分の考えの根拠を見出させる。
・新聞記事をできるだけ活用するが、学習場面に応じて、ビデオ、教科書、資料集を活用させ、ばらばらな情報を有機的にとらえられるようにする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

児童からは、「今まで世界に認められるほど支援をしてきたから、多くの国が支援してくれた」、「日本も外国もみんな一人ひとり助け合っているのがわかった」、「ユニセフ募金など、協力できることをこれからも続けていきたい」、「日本はこれからも困っている国を助けられる国でいたい」などの感想が出された。

12．成果と課題

○ 本時に至る学習のなかでは、自分のスクラップを学習に活用し、社会科で世界の国々を調べたり、地図に表す等の活動をしたりして、視野を広めるのに役立てることができた。
○ 継続的に新聞記事を使い、学習内容を現実社会とつなげることで、意欲的な学習ができることを実感した。
○ 継続的にスクラップに取り組ませることで、児童が新聞を読むことへの抵抗感がなくなってきた。記事の内容を精選し、１～２の記事について、皆でじっくり考えあうことが必要であった。
● 多くの資料を与えることで、見方・考え方を広めることはできたが、深めることにはつながらなかったと思